

図書館報

光血

No.157



ページをめくる旅

山容病院
院長 小林和人

物心ついた時には本好きだった。父は転勤が多く、小学四年一学期を千葉で、二学期は長野、そして三学期から福岡で過ごした。転校するとまず図書室が気になるような子供だった。どの学校でもだいたい読書量はトップで、下手すると授業中にも読んでしまい怒られたが、中学受験をすることになり急ぎょ小学六年から塾に通い始め、あまり本を読まなくなった。学校にある本はだいたい読み終えたというのもあった。中学に入ってから自転車で福岡市立図書館に行くようになった。住んでいた区の図書館は商店街を抜けた、バスターミナルの建物に入っていた。推理小説、歴史、SFなどのシリーズ物を好み、パソコン雑誌と一緒に借りるのが習慣だった。それも時々飽きて、古本屋で昔の

仮名遣いの文学を安く買ったりもした。そして高校受験を機にまた読書から遠のいた。高校時代は寮生活で勉強がとてめ厳しく、趣味で読書する余裕はなかった。東大は変わっていて最初二年間は教養学部にも所属し、医学教育は二年の後期からだったので、また読書するようになった。こうやって振り返ると受験が読書の邪魔をしているように思えてならない。大学時代は哲学、文学、映画などの講義も選んだ(僕らの環境ではなかった)。普通のことだった。しかし受験勉強の反動なのか、講義をよくサボり、僕は劣等生の道を突き進んでいった。おかげでガルシア・マルケスを知った。

五月十一日西安の地に降り立ったのだ。最終的にローマまで一〇、〇四五kmを単独で走ったこの旅は、「MTB(マウンテンバイク)ツーリング全技術(九里徳泰)」という本がきっかけだった。中国西部と旧ソ連(中央アジア、カフカス)に適したガイドブックはほとんどなく、「旅行人ノート6シルクロード 中央アジアの国々(旅行人編集室)」を持っていった。次の街まで遠く一本の上で一ページ進むのに一週間走らなければならない。ページをめくる旅でもあった。「東方見聞録」を記したマルコ・ポーロが一年滞在したという張掖に一週間いた。天候や体調が悪い時など安ホテルに連泊することもあり、暇なので読書するようになった。読み終えた後に次の本をどうやって手に入れるか?それはズバリ、交換によって。日本語に飢えていたから、たまたま街で見かけた日本人旅行者や宿で知り合った人たち、反対方向から走って来るサイクリストとはよく喋った。

その中の一人がもうすぐ帰国するからと一冊くれた。それを別の本に交換して、新しい本を手に入れたというわけだ。本の好みは人それぞれ、交換取引の目安は内容でなくページ数だ。うまいこと分厚い本を手に入れてそれを中位の厚さの本二冊に変えると本の数が増やせる。まるでわらしべ長者みたいな話だ。シリヤスなノン・フィクションも読んだが、やはり娯楽小説は息抜きになった。「修道士カドフェル(エリス・ピーターズ)」、「検屍官(パトリシア・コーンウェル)」は面白かった。どことなく職業臭が漂う。

読書歴を振り返るなんて初めてだが、これを機に思い出したことが数多くあり興味深かった。旅の宿やテントで出版を夢見て旅行記を書いていたが、五大大陸走破の夢が中座してしまい、それは忘却の彼方にあった。最近はずいぶん書くことが多いが、子供の影響で読むこともまた増えてきた。これからも図書館とともに。

地域史料の保存について②

北前船「客船帳」等史料について

—宮野浦村阿部家文書を中心に—

庄内酒田古文書館館長 杉原丈夫

十七世紀末酒田湊は河村瑞賢の西廻り航路の整備により、大阪や下関など全国津々浦々より沢山の船が入港しました。

しかし、これまで『酒田市史資料編』や改訂版『酒田市史』等では北前船に関する史料は見つからないため、どのような船がいつ頃入港したのか、客船帳をはじめ関連史料は他の湊の客船帳などに頼らざるを得ませんでした。

そのような折、昨年阿部家文書が光丘文庫所蔵文書となり、客船帳を始めとして船関係文書により全国津々浦々の北前船がいつ頃、どこの湊から、どのような船が寄港していたかが判明しました。

次に阿部家文書の北前船関係文書の概略について述べてみます。

宮野浦村阿部家は代々屋号が松屋八兵衛を名乗り、村長人を歴任し、幕末においては肝煎職になり、村政を長として職務を果たし、また、北前船の御客の世話をして、芳志を頂く商売をしていました。

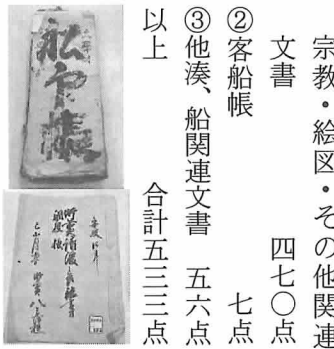
次に客船帳ほか関連史料について列記します。

① 支配・土地・租税・村・町・戸口・救恤・金銭貸借・商業・農林水産・家・学芸・職業・歴史・書簡・宗教・絵図・その他関連文書 四七〇点

② 客船帳 七点

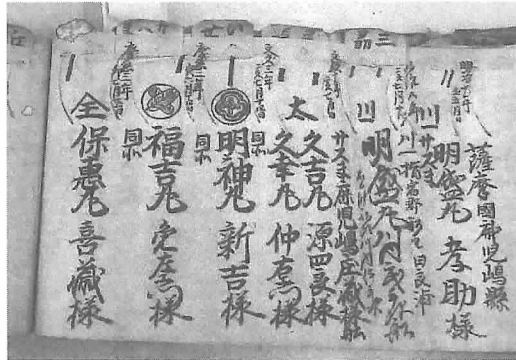
③ 他湊、船関係文書 五六点

以上 合計五三三点



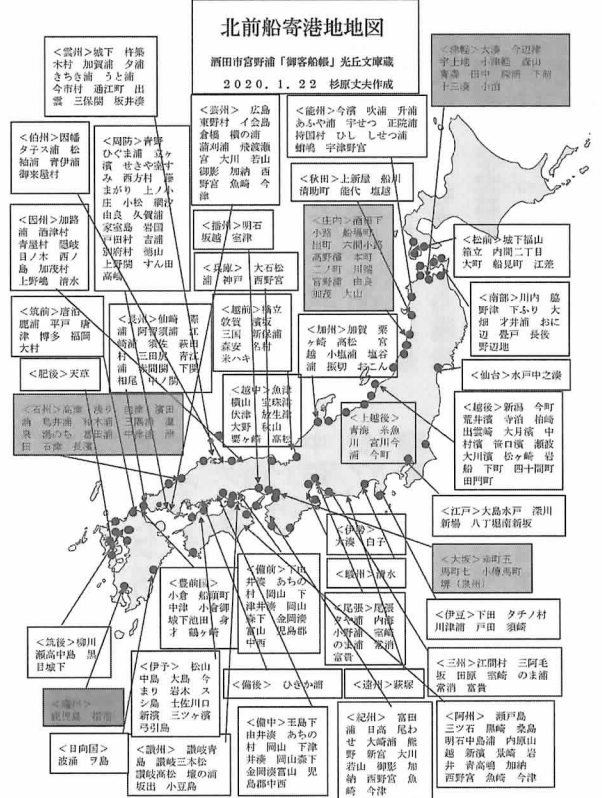
文政十年 船印帳 正月吉日 肝煎諸渡之節諸書付 調控帳 巳正月廿一日 肝煎八兵衛控

阿部家文書「御客船帳」で作成した寄港地地図を見ると、北海道松前から薩摩鹿児島まで全国から酒田湊に入港していました。

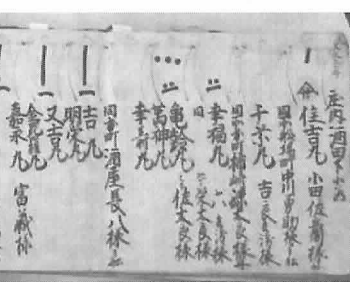


写真は、遠くは九州鹿児島からも北前船はやって来て酒田湊に寄港していた例です。

Table listing ship names and dates: 文政十年 亥七月日 久吉丸 源四良 様; 文久三年 同所 亥七月十四日 明神丸 新吉 様; 慶應二年 同所 亥六月十四日 福吉丸 免左衛門 様; 慶應三年 同所 卯七月廿一日 保惠丸 喜蔵 様; 明治十年 丑五月日 明盛丸 孝助 様; 明治八年 川一 指宿郡船と田良浦 船と沖船頭川内伊平次 サスマ鹿児島庄蔵様船



以上のように、阿部家文書特にその中の客船帳等では寄港地地図の作成や全国各地の北前船の存在の検証が可能であり、貴重な史料となっています。今後、史料保存と同時に十分その活用が図られていかなければならないと考えます。(客船帳等使用画像等は光丘文庫所蔵史料、北前船寄港地地図は杉原作成)



庄内酒田の北前船

因みに江戸期の酒田湊の船(北前船)も最後に記載されていたので、付記します。

- 下小路 一艘
- 船場町 三艘
- 出町 一四艘
- 六間小路 一艘
- 高野浜 一艘

戦前の酒田における映画館(3)

酒田市立図書館長 岩 浪 勝 彦

○中央館

大正七年(一九一八)十二月十五日には酒田における常設映画館としては三つ目の「中央館」が上内匠町七十五番地に開館する。位置は大正館の東隣であり、もとは「長浜の湯」という銭湯であった。館主は長浜貞之助、

興行部による経営だったが、開館からわずか四か月足らずの大正八年(一九一九)四月には両羽演芸株式会社という組織に経営が移っている。

営業主は山形の旭座を経営していた宮崎章(宮崎興行部のちに県内各都市で宮崎シネマチェーンを経営する宮崎合名社の前身)で、収容人員五百名、売店や特等席もある本格的な常設館であった。

この両羽演芸株式会社は、山形市と酒田町の興行経営者が大正八年三月三十日に共同で起こした会社で、山形の旭座、酒田の中央館と港座、鶴岡の鶴岡座を経営していた。

光丘文庫所蔵の酒田町役場に提出された大正七年十一月二十二日の建物届によれば、中央館の構造は、木造

なお、中央館は営業期間がわずか三年足らずということもあって建物写真の存在が確認されていないほか、過

杉皮葺の二階建て、床面積約二五五平方メートルとなっている。

十二月十五日の落成式には町会議員など名士百名以上が招待され、佐藤良次酒田新聞主筆が祝辞を述べたほか、今町や新町の芸妓が手踊

りを披露している。

開館廣告

活動寫眞、現代社會ノ必要物トシテ一般ニ要求セラレ居ルニモ拘ラズ當地方ニハ未ダ完全セザレテ常設館ナキヲ以テ今回小生等相計リ市内中央ノ地點ヲ選擇シ過般來建築中ノ處愈々竣工セシヲ以テ來十五日落成式ヲ兼テ開館披露ヲ致シ候ニ付何卒將來ホク御愛顧ノ榮ヲ賜リ度奉希上候

十二月
活動寫眞常設館(上内匠町)
中央館
館主 長濱貞之助
營業主 宮崎章

中央館開館廣告 (大正7年12月14日付「酒田新聞」)

去に出版された地域史資料でもふれられたことがない。

○上内匠町への乱立

大正期は映画が大衆娯楽産業として普及し始めた時期で、日活、松竹といった大手映画会社が作品を東京と京都で撮影・量産し、全国の映画館でこれらの作品が公開されるようになった結果、尾上松之助をはじめとする映画スターが生まれ、全国のどこでも上映できるとい

映画の特性により、地方にも大勢の映画ファンを生み出した。

このような状況下で、大正九年(一九二〇)の前半(この年は八月と十二月分しか新聞が現存していないため正確な時期は不明)に酒田で四つ目の映画館として上内匠町三十七番地角(現在のマルホンビルの位置)に三階建(床面積三二二平方メートル)の旭館が斎藤近尚によって開館したことにより、上内匠町は、東京浅草の地方版のような娯楽が集まる場所となった。

付近)で明治四十四年(一九一一)十二月から銭湯としての設備面では山形県一ではないかと「酒田新聞」に書かれている旭湯(大正初期まで日和山中央にあった旭山にちなむ)や上内匠町角で百貨店の旭商店を経営していることから、旭館としたと推測される。

これら三館の観客の奪い合いについて、大正九年(一九二〇)十一月十七日付けの「酒田新聞」によると、サービスの質を競う健全なものではなく、「見戯に等しい陋劣な競争で、互いに罵言嘲弄をもって応酬し居るに過ぎざる等、これに伴う警察事故多し、値下げ競争が激しくなったことよって収益が下がり、疊(当時の観客席は疊敷き)や座布団が著しく汚れたままとなり、民家を改造した大正館は便所も衛生上改築が必要であるも実現せず、将来の市制施行を見据えると美観上、市の中央に常設することにはふさわしくないと小林多喜三郎酒田警察署長の談話が掲載されている。

そこで大正九年十二月に三館を統合する話が持ち上

がり、酒田警察署長が仲介のうえ、中村兵五郎委員長(中村鉄工所)のもとに金井晴五郎(質店)、菅原豊太郎(港屋時計店)、伊藤甚作(土工請負合資会社)などが創立実行委員となり、大正十年(一九二一)三月二十三日、酒田演芸株式会社が設立され、同年九月八日から大正館と中央館を廃止し、旭館は四月二十九日から「巴館」と名称を変更したうえで、大正十一年四月の新たな統合館である中央座の開館まで約一年間営業を続けた。

この巴館の写真も、前身の旭館時代を含めて約二年間の営業期間であり、現存していない。

新築 紀念大興行
落成 十一月十五日より
米國トライアングル、クービ
米國トライアングル、クービ
大活劇 シエル 43巻 5
舞臺監督トーマス、エーチイ
近來の雄偉軍事壯劇也
活劇 追駈砲彈 二
●賞劇 ●米軍倫敦通手
●賞劇 ●米軍倫敦通手
◎日活會社代表的傑作
舊劇 五郎正宗 卷三
宮崎興行部經營
常設
開館 紀念懸賞大募集あり

中央館最初の上映作品廣告 (大正7年12月15日付「酒田新聞」)

小倉百人一首かるたの古豪

酒田かるた会 顧問 菅 啓 彦

昭和二十二年、むべやま会、田村錠太郎かるた会、酒田かるた会の三つの会が統合して「酒田かるた協会」が設立。創始者は新聞記者の佐藤氏。

戦時中には天皇の札を払うことは不敬罪にあたることとされ、庄内平野では軍人らしく勇ましく板かるたを槍でつく訓練が行われていたという。戦後になって今度は逆にGHQより天皇の歌を取り合う小倉百人一首かるたは、

軍国主義的だと指摘され、かるたは禁止されることとなったが、昭和二十二年誤解であったとして全面解禁となった。当時は鶴岡との交流定期戦や東北大会もこの地で開かれ、港町に隆盛期が訪れている。昭和三十年ころには旧本間家本邸でかるたの練習が行われていた。だが昭和の後半になって酒田での練習は行われなくなった。それを憂い、旧八幡町の故信夫信之教育長が八幡町百人一首かるた大会を開催、また時を同じくして出羽遊心館の

誕生とともに新春を告げる風物詩として、酒田市少年少女百人一首かるた大会も行われるようになった。十五年

近く熱戦が繰り広げられたが、市町村合併により八幡大会と併合されることとなった。その後は酒田かるた会クリスマス錬成大会として、今もかるた会が主催となり無料開催を続けている。

競技かるたは漫画やアニメで、「畳上の格闘技」と呼ばれている。スポーツにはそれぞれ適正能力が存在するが、かるたはまず短歌を百首覚える根気が必要である。さらに札が並べられた位置を正確に覚える暗記能力も大切になってくる。加えて日本語の子音を聞き分け、それらを反射的に払うスキルも鍛えなければならぬ。それらを志す、或いは兼ね備えた山形県内の優良明晰な少年少女が、酒田かるた会に集うようになっただけで嬉しいことであった。日本全国はもとより海外からもこの地

に出稽古に赴いてくれ、そのおかげかこの二十年間に十名のA級選手(四段)が生まれた。またかるた会から、酒田東高校の首席合格者を四名輩出している。

そんな彼ら彼女らが切磋琢磨する場所は、酒田市総合文化センター以外にはない。和室が充実していることはもとより、まさに文化センターはその名が冠する通り「文化の中心」なのである。

一階アリーナには、年中コンテストやコンクールの芸術作品が並び、絵画展・書道展・それに俳句や学校新聞など、その年の優秀作品が展示され続けるのである。心が豊かになることは言うまでもなく、それを見ることにより毎週文化センターに足を運ぶ子供たちは、自分に何がたりなかつたのか、優秀作品と自分との「差」を確認できる。また一学年上の入賞作品を目にするにより、来年の入選ラインを無意識のうちに意識できるのである。

もう一つ文化センターの良さがある。図書館が併設されていることである。十冊借りた本を一週間で読んで

すという習慣が定着する。かゝることを続けることイコール読書習慣と、同年代や世代を超えた優秀作品の鑑賞能力がついてくる。遠征選手がよく文化センターで口にする言葉がある。「ここはいつ来ても人で溢れていて、酒田が文化的な町であることが分かります」。この言葉こそが酒田かるた会の強さの秘訣だと思っている。

現在コロナ禍の影響で、文化センターでは練習できない日が続いている。地域経済文化、命の尊さ大切さ、みんなが安心して文化センターに集える日を心待ちに、完全復活を願っている。

話は変わるが、本間光丘翁は生前に最上川の舟着き場近辺で、人さらいが横行していることを憂い、安心して舟を待つことができるよう図書館設立を提案していた。舟を待つ時間に読書を通して勉学に勤しむことができるのは特に公益であると。結局様々あり図書館は建設できず、これが唯一、光丘翁が生前行おうとしてできなかったこと、になってしまったという。そんな彼の死後、図書

館を建て「光丘文庫」と名付けたのが酒田人の粋なところであると教わった。いつかそんな粋で文化的な酒田の地より、かるたの最高峰「名人位・クイーン位」が出て欲しいと切に願っている。できれば私の生前に(笑)。

最後に酒田かるた会の復活に伴い、総合文化センターの皆様、羽黒高等学校かるた部顧問の小松先生・岩城先生、八幡町かるた愛好会の荒生夫妻、若浜百人一首を楽しむ会の北村先生、TOS S山形の佐藤先生と伊藤先生、余目百人一首愛好会の富樫先生、鶴岡かるた若葉会の星野先生、酒田かるた協会の故小松会長と上林会長からのご恩を記しておく。



酒田かるた会の皆さん

光丘文庫資料紹介 『清河正明伝』

光丘文庫古典籍調査員
田村真一

清河正明とは清河八郎(一八三〇〜一八六三)のことである。

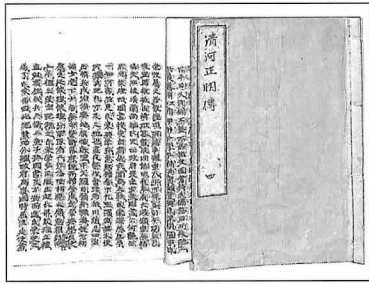
『清河正明伝』は明治三十年(一八九七)に酒田の漢学者・須田古龍(一八六六〜一九四五)によって著された。古龍の本名は文太郎である。

八郎と古龍の縁は深い。二人の関係について古龍の弟子である小山松勝一郎氏は自身の著書の中で以下のように述べている。

「安政三年(一八五六)、八郎が清川の楽水楼で勉強を始めた時、鈴木政がかたわらで世話をした。政は八郎と結ばれるつもりであったし、八郎は政を愛していた。けれども許されぬ事情があって、政は実家に引きとられた。実家は庄内藩の支藩二万五千石松山城下である。その後、政は城主酒井忠良に召し出され名を婦美(ふみ)と賜わった。御殿奉公十年の後、慶應元年(一八六五)暇をいただき、酒田の医師須田文栄に嫁した。慶應二年(一八六六)二十九歳、男子を挙げ、文太郎と名づけた。婦美は明治四年(一八七一)、三十四才で没した。文太郎、六歳の時であった」

母の縁により古龍が清河八郎を研究せずにはいられなかった事は想像に難くない。清河八郎は幕末に庄内(清川村)から出た奇傑である。幕末の映画やドラマにも、時おり、顔を見せるが、その役柄はどこか負のイメージを漂わせる。そのせいか、巷の八郎の印象はあまり芳しいものではないように思われる。

それは今日まで清河八郎を歴史的に顕彰してこなかったことに起因するものと考ええる。『清河正明伝』は、八郎の日記『且起私乗』などを許し、史実に基づいて八郎の行実を纏めた書籍である。漢文で書かれ四冊からなる。同伝は八郎の思想や精神の機微まで詳細に描いている。



須田古龍著『清河正明伝』

『清河正明伝』の内容を以下に簡単に記す。

八郎は現在の庄内町清川の醸酒業を営む齋藤家の長男として生まれた。八郎の祖父・昌義は書齋を設ける程の読書家で幼少の八郎は祖父の薫陶を

受け読書に親しむようになる。八郎十八歳の時、出府して東一条一堂の塾に入り論語等を学んだ。この年の暮れに出府してきた鶴岡の叔父二人の勧誘を受け西国旅行に出かける。この時、最愛の弟・熊次郎が病死。これを機に八郎は帰郷する。

嘉永四年(一八五二)再び出府し東条塾に再入塾する。それとともに剣術を習うべく千葉周作の門を叩いている。八郎二十二才の時である。

翌年、幕府の昌平校書生寮に入るため、安積良斎塾に移っている。八郎は蝦夷地視察のため一旦、庄内へ帰郷する。

みたび出府した八郎は二十五歳にして昌平校書生寮に入るも、昌平校が自分には合わないと感じ急遽、常総旅行へと出掛ける。その後、八郎は東条塾の助手を請われ昌平校は自然退寮となる。が、東条塾では手当もなく、自分の勉強にもならないことから、三河町に塾を開く。教える分野は経学・文章指南であった。ほどなく、三河塾は火事で焼失。八郎は帰郷の途につく。

帰路についた八郎は実母を連れて西国へと旅立つ。それが後に『西遊草』として纏められた。

八郎二十七歳の折、湯田川温泉で遊女をしていたお蓮と知り合う。八郎はその後、お蓮とともに出府し、駿河台淡路坂に二度目の塾を開く。この

時、山岡鉄太郎や薩摩藩士と交わるようになる。が、この塾も火災で焼失。清川へ戻るも、すぐに江戸に上り、神田お玉ヶ池に三度目の塾、清河塾を開く。この塾は「虎尾の会」とも呼ばれ尊王攘夷を志す者達の結集場となっていく。

文久元年(一八六一)八郎は補吏の仕掛けた畏に嵌る。職人風と思われる男に八郎は難癖をつけられた。あまりにも度を越した男の応接に八郎は激怒し無礼者と一喝しその男を斬った。男はわざと八郎が怒るように仕向けたのである。

八郎は即座に咎人となる。八郎の無礼人斬りにより小伝馬町の牢獄に繋がれたのは池田徳太郎をはじめ八郎の妻・お蓮など八名であった。お蓮は後に牢死することとなる。

八郎の潜匿生活が始まる。この時、同行したのは安積五郎である。その間、八郎は新潟・信州・上州・水戸・遠野・九州・京都などを巡った。

文久二年(一八六二)八郎は孝明天皇へ密封した書を奏した。回天封事である。この書は夷狄論・草莽志士論・攘夷論・政治論の四章からなるものであった。

また、八郎は幕府政事総裁・松平春嶽に急務三策という建白書を提出。その内容は①攘夷の断行②大赦の発令(罪を免ずる)③天下の英才の重用、であった。

幕府は急務三策を受け入れ、八郎の大赦がなり③に基づき八郎を頭目とする浪士組が結成される。

幕府が統括する浪士組の頭目になった八郎に対し同志(尊王攘夷論者)から批判されることとなる。

浪士組は將軍上洛の警護として京都に赴くも、八郎は新徳寺本堂に浪士を集めて以下のように言説する。

「我々は幕府の微に応じたけれども、禄も位も受けていない。一体幕府が我々に京都警衛を命じたのは、朝旨によるもので、幕府にかかわるものではない。我々は尊王攘夷の大義を明らかにすることを責務とする」

ここに八郎が心底を表白したのである。

幕府は生麦事件(横浜港へ英国軍艦来航の折、英国人が生麦において、襲撃された)に際して浪士組を帰府させた。

文久三年(一八六三)四月十三日、幕府が放った刺客、佐々木只三郎等によって八郎は暗殺される。享年三十四才であった。

古龍は八郎を国事を誰よりも案じ尊王攘夷という思想の許、体を張って国難を乗り越えようと行動した幕末の獅子であった、と位置づける。

古龍は清河八郎を研究した黎明の人であった。『清河正明伝』はその結実した書といえる。



ミライニが先行オープン
します

十一月二十八日に酒田駅前交流拠点施設ミライニが先行オープンします。観光案内所と図書館フロアの一部が利用できます。グラントオープンは、令和四年春を予定しており、新たな市立図書館が誕生します。

なお、グラントオープンまでの期間は、現在の総合文化センターにある中央図書館をご利用ください(移転作業期間を除く)。

「光丘文庫デジタルアーカイブ」のコンテンツ追加について

光丘文庫所蔵資料について、市民のほか、広く全国に周知を図り、酒田の歴史について学び親しんでもらうた



江とし藤 佐藤

デザイン 佐藤 十弥

め、同文庫を所管する図書館では、平成三十年から「光丘文庫デジタルアーカイブ事業」を実施し、インターネットで公開しています。

今年度は、明治末期の女学生の日記や所蔵資料のデジタル画像の追加、昭和三十年代の酒田市街地図などについて、十月からの公開を予定しています。

- (今年度の主な内容)
- 明治末期の酒田高等女学校生徒による日記文(佐藤とし江日記)
- 昭和三十六年(一九六一)の酒田市街の住宅地図
- 昭和三十九年(一九六四)以前の市内旧町名による詳細図

「光丘文庫資料データベース」を構築します

公益財団法人図書館振興財団の助成金を活用して、光丘文庫所蔵資料目録のインターネット検索を可能とするデータベースを構築し、全国に発信します。

資料データベースでは、キーワード等で所蔵資料の目録を検索することが可能になり、全国の歴史研究者等による光丘文庫所蔵資料の有効活用が期待されます。十一月からの公開を予定

しています。

図書館企画展示のお知らせ

中央図書館では、新刊図書や郷土出版物の案内、常設企画展示、定期的にテーマを変えた企画展示を実施しています。

今回の企画展示は、最近特に身近になってきているAIやロボット、環境や腸活などについて特集しています。是非、手にとってお気に入りの本をご覧ください。

- 岩波少年文庫と種まく人
- あつまれ最先端技術！
- eco(エコ)地球にやさしいくらし
- カラダをつくろう!! 筋トレと腸活

【展示期間(予定)】

七月三十日～九月二十九日

○読書感想文を書こう

「第六十六回青少年読書感想文全国コンクール」の課題図書、「第五十三回YBC読書感想文」指定図書、「第五十三回夏休みの本(緑陰図書)」を展示しています。

【展示期間】

六月三十日～八月二十四日

光丘文庫展示

「大川周明資料展」

酒田が生んだ戦前の思想



大川 周明

家、大川周明。東京帝国大学インド哲学科を卒業後、古代日本の研究やインド独立運動に傾斜し、第一次世界大戦前後の国際的変動を受け、国家改造や米英からの東南アジア解放に尽力しました。

今回の展示では、大川周明の著作本、自筆原稿、日記、五・一五事件裁判資料、南方会(なんぼうかい)機関誌「みんなみ」、大川塾機関誌「瑞光(ずいこう)」などを紹介しています。

【展示期間】

四月三日～九月二十五日

(土日・祝日を除く)

図書館ホームページにあるMY本棚を活用ください

新しい図書館ホームページでは、新たに「MY本棚」機能が追加されました。マイライブラリからのログイン後に利用照会をクリックすると、利用者ポータル「MY本棚」にアクセスできます。

「MY本棚」では、読みたい

本などをウェブ上の個人専用本棚に保存し、管理できるとともに、自分の借りた本の履歴も閲覧可能で、読書手帳のような使い方もできます。この機会に是非ご利用ください。

新型コロナウイルスの感染拡大防止にご協力ください

図書館では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、次のような対策を実施しています。

- ・手指消毒剤の設置
- ・椅子を減らし、間隔を開けた配置(インターネット閲覧パソコンを含む)
- ・窓の解放による換気(随時)
- ・カウンターへの透明シート設置
- ・貸出袋提供の中止
- ・ご利用の際はご協力をお願いいたします。

【執筆者紹介】

- 小林和人 (山容病院院長)
- 杉原丈夫 (庄内酒田古文書館館長)
- 岩浪勝彦 (酒田市立図書館館長)
- 菅 啓彦 (酒田かるた会顧問)
- 田村真一 (市立光丘文庫古典籍調査員)

発行 酒田市立中央図書館 酒田市立光丘文庫

酒田市中心西町二番五九号 酒田市中町一丁目四番一〇号

電話(24)二九九六番 電話(22)〇五五一番 印刷 明徴出版(有)